

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：ジャカルタ邦人向け公開講演会 『現代インドネシアのイスラームを知る 2』

日時：2019年2月17日（日）13:30～16:30（開場 13:15～）

場所：国際交流基金ジャカルタ日本文化センター

参加者：100名（うち外国人 35人 講演者含む）

## 内容

本講演会は AA 研コタキナバル・リエゾンオフィス (KKLO) のアウトリーチ活動の一環として KKLO に関係する研究者の研究活動の成果の一端を一般の（専門家以外の）方々、特に東南アジアに暮らす邦人向けに公開発信することを目的としており、ジャカルタでの開催は今回が3回目となる。

イスラームはどのようにインドネシアの政治や文化、人々の暮らしに影響を与えているのか。またインドネシアのイスラームにはどんな特徴があるのか。そして、過去と現在では、イスラームの有り方はどのように変化しているのか。昨年度に続き、講演会はこれらの疑問について答えることを目的とした。本年度も定員を上回る参加応募があり、大変盛況であった。なお今回の企画は、交流基金の **Japan Cultural Weeks** の一環としても位置づけられている。そのため今年は若いインドネシア人ムスリムの方々の参加も多くみられた。

冒頭で国際交流基金ジャカルタ日本文化センターの塚本倫久所長より挨拶がなされた。次に KKLO の拠点長床呂郁哉所員から挨拶と趣旨説明、そして講師紹介があった。

続いて千葉大学名誉教授中村光男氏による講演『インドネシアのイスラーム：Q&A』が行われた。この講演は4つの主要な問いに答えるものである。一つ目の問い「なぜこの話題をとりあげるのか」では、この国が世界最多のムスリム人口を有しながら、民主的かつ近代的な独特の国造りを行っている重要なケースであること、また、インドネシア人にとって心の核心には宗教・信仰があること等が説明された。2つ目の問い「イスラーム教徒が絶対多数（88%）であるにも拘わらず、何故、国教ではないのか」では、その答えが建国のプロセスにあることが示された。この地域では、様々な土着の文化の上に、いくつもの宗教文明が積み重なり、多様な宗教部分布が生じている。また独立時にキリスト教徒の強い反対によって国教化が回避され、代わりに一神教の信仰という原則で決着をみたという経緯がある。これらを背景に、世俗国家ではないがイスラーム国家でもない現在の国の形がうまれたのである。3つ目の問い「インドネシアのイスラームの特徴は？インドネシアのムスリムは『いい加減』か？」については、「いい加減か」どうかを測る上では六信五行がどこまで実践されているかを目安にすることができ、その面においては世界でも非常に熱心かつ忠実に実践されているといえると解説された。4つ目の問い、「インドネシアの『イスラーム市民社会』はどのように形成されてきたか？どれほど、社会的影響力をもっているか」に関しては、

ムハマディアとナフダトゥール・ウラマー (NU) をとりあげ、それぞれの設立経緯、理念、支持基盤、活動内容等が紹介され、両者が国内の巨大なセーフネットとして機能していることが述べられた。そして、進歩的で理性的なイスラームを追及するムハマディアの理念と、インドネシアの多様な文化を尊重する NU のイスラーム・ヌサンタラの理念が合わさった、進歩的であるイスラーム・ヌサンタラにこそ希望があると語られた。最後には「提言：日本はインドネシア・イスラームと、どう付き合うべきか」として、世界に中道的イスラームを広めようとする穏健派・主流の国際的展開への支援、教育や科学技術分野における協力、そして官民で行われている交流プロジェクトの継続発展が日本にとって重要であることが述べられた。また在インドネシアの邦人は、イスラームの儀礼や行事に積極的に参加することで関係を深められることや、問題が起きた場合ウラマーに相談できることなど具体的なアドバイスも伝えられた。

後半では、国際交流基金の事業である『東南アジア・ムスリム青年との対話 Talk with Muslims series』(通称 TAMU プロジェクト) の紹介がなされた。これは東南アジア各地のムスリムの若手知識人、活動家らを日本に約 10 日間招へいするものである。国際交流基金の山口拓真氏がプロジェクトの概要を説明したのち、2018 年のインドネシア人フェローのなかからムハマド・ファドゥラン・ラッロ・ナスルング氏とノルマ・サリ氏が、日本を訪れた際の感想、プロジェクトに参加して得られた新たな知見、およびプログラムを受けて現在展開している活動等について語った。通訳は吉田ゆか子。日本で感じたインドネシアとの宗教観や宗教実践のあり方の違い、イスラームの教義と日本人の倫理観や礼儀正しさのあいだの共通性などが語られた。

前半後半ともに、来場の邦人からもインドネシア人からも非常に沢山の質問が寄せられ、時間を延長しての非常に充実した質疑応答がおこなわれた。

文責 吉田ゆか子